

「十三」

令和2年度 第3号

夢を語り合う仲間と共に

校長 光安 淳子

7月28日、メンタルスキルコーチ飯山暁朗先生の講演会を開催しました。高橋育友会長さんの「中止にしたり、あきらめたりすることは簡単だけど、こんな時だからこそできることがないだろうか」というの熱い想いを受け、育友会役員の皆様のご尽力によりこの講演会が実現しました。支え合い、学び合う仲間の存在に、感謝の気持ちが溢れました。

飯山先生は、高岡商業高校や星稜高校の野球部のメンタルコーチとして、数々のドラマを生んでこられました。さらに、平昌五輪スピードスケートで2つの金メダルを手にした高木菜那選手のメンタルトレーナーもなさっておられました。身長が小さいことを苦しんでいた菜那選手に、「世界一小さい金メダリストになろう!」とハンディを武器にする逆転の発想を伝授。勝ちたいという思いは強いが妹美帆に勝てないことに悩んでいたときには、「誰かのために滑ることが最後の力になる」とアドバイス。その後、「自分の原動力は両親の笑顔」と気づき、最高の力を発揮することができたそうです。

コロナ禍の今、中学校における大切な教育活動である3年修学旅行、2年14歳の挑戦が中止となりました。2年宿泊学習、1年校外学習も中止にせざるを得ない状況です。

しかし、今こそ、私たちは、どう生きるかを問い続けたいと思います。十三中学校だからこそできることがあると思います。生徒の皆さんの健やかな成長を願って、確かな学びを積み重ねていきたいと思います。

最後に、飯山先生に教えていただいた夢実現の法則を紹介します。

夢実現の法則

- ① ワクワクする夢をもつ
～正しいことをワクワクしながらやる～
- ② 夢を語り合う友をもつ
～思いよりも、言葉や動作を変える～
- ③ 夢を支えてくれる人をもつ
～自分のためより、誰かのために～

◆◆◆ 1学期のアクションプランの取組について ◆◆◆

アクションプラン1 学び合い、共に高める学習活動

アクションプラン1のキーワードは、「学び合い、共に高める学習活動」です。「学習の目標を理解して学習活動に取り組むための方策」「基礎・基本を確認する機会を設け『分かった、できた』を実感できる方策」を工夫し、授業を実践しました。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学習活動や学び合いに配慮が求められる中で、ICT機器を活用したり、級友のよいノート例から学ぶ機会を設けたりしたことで、様々な考えや互いのよさに気付くことができました。生徒のアンケートでは、概ね良好な結果が表れていますが、より主体的に学ぶ意識が高められる授業づくりに取り組んでいきます。

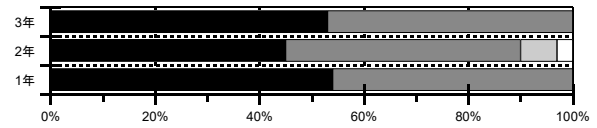
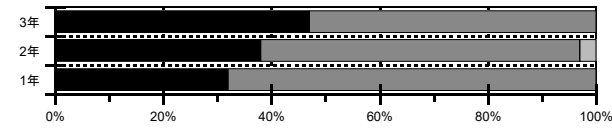
また、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、国語科では毎時間を漢字小テストを行い、その振り返りとして漢字コンテストも定期的に行いました。スモールステップでの積み重ねを繰り返していることで、漢字を復習する習慣が身に付き、どの学年も昨年よりも正答率が上がっています。日々の地道な取り組みは確実に成果として表れます。今後、他教科の学習でも、継続した取組として進めていきます。

7月30日、3年生は本校を卒業した氷見高校生による学校説明会に臨みました。卒業生から、高校生活の実際や受験に向けた心構え、勉強法など具体的なアドバイスを聞き、進路選択に向け、気持ちを新たにしました。コロナ禍でオープンハイスクールが実施されない中で、この貴重な機会を生かして、3年生の夢の実現することを願っています。

【学校評価アンケート（生徒）の結果】

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない)

- 1 授業では、学習の目標を理解して、学習活動に取り組むことができた。
- 2 授業では、課題に対して自分で考え、進んで取り組むことができた。



2年生「栽培実習」



水見高生による学校説明会



育友会講演会（講師：飯山昶朗氏）

アクションプラン2 仲間を認め合い、支え合う態度の育成

アクションプラン2のキーワードは「仲間を認め合い、支え合う態度の育成」です。生徒同士が関わり合いの中から、共に高め合う集団づくりを心がけています。生徒会活動では、例年よりも遅いスタートとなりましたが、生徒総会、常任委員会を行い、自分たちの手で企画・運営する活動を展開しています。また、今年も湖南小児童との小中連携で活動を進める際に結束力が高められるよう、小中合同でスローガンを募集し、活動のシンボルとなるのぼり旗の作成を進めています。

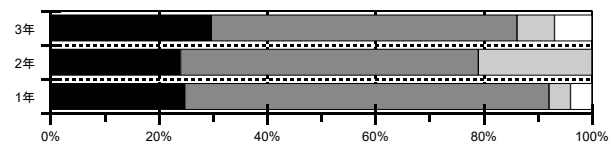
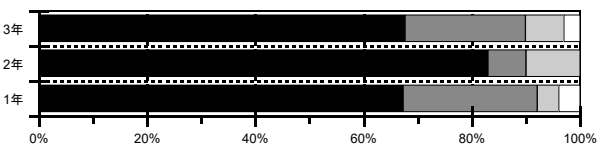
7月16日には、全校生徒で「きずなの森整備活動」を行い、自分たちの手で会場づくりの一翼を担うとともに、地域の一員としての意識を高める場ともなりました。また、7月18日に行われた「竹ドームコンサート」では、3年生が合唱とボディーパーカッションを披露しました。練習期間が例年よりも短い中で、表現力を磨き上げ、合唱、ボディーパーカッションともに息の合った迫力あるものとなりました。3年生の生徒たちの表情にも、充実感がみなぎっていました。

今後、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、活動に制約がある中でも工夫を施し、生徒たちの輝ける場を設け、協力することの大切さを学ぶとともに、仲間のいいところを見付け、認め合い、支え合う態度が育っていくことを願っています。

【学校評価アンケート（生徒）の結果】

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない)

- 3 みんなで協力して物事をやり遂げ、うれしいと感じることができた。
- 4 自分にはよいところがあると思うことができた。



生徒総会



きずなの森整備活動



竹ドームコンサート